

【公開文書】

臨床研究「帝王切開術後の鎮痛方法が母乳育児に及ぼす影響について」

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究対象

2012 年 9 月 1 日以降に当院で帝王切開術で出産された母児

② 研究の意義・目的・方法

近年、術後肺塞栓症予防の観点から術後持続硬膜外ブロックを避け、フェンタニルの静脈内投与による術後鎮痛を行う機会が増加している。しかし、帝王切開術後に自己調節型静脈内フェンタニル投与を行った場合の母乳を介する児への影響や、母乳栄養確立への影響についてはこれまで十分に検討されていない。

目的 予定帝王切開術後に自己調節硬膜外鎮痛法を用いた場合と自己調節静脈内フェンタニル投与法を用いた場合の、退院時と術後 1 か月後の栄養方法を比較する。

方法 2012 年 9 月から 2013 年 10 月に当院において脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔もしくは脊椎くも膜下麻酔下に行われた予定帝王切開術で、術後 7 日目に 母児共に退院した症例を対象とする。術後鎮痛にフェンタニル 3 $\mu\text{g/ml}$ を添加した 0.2%ロピバカインによる自己調節硬膜外鎮痛法を用いた群（PCEA 群）と、自己調節静脈内フェンタニル投与法を用いた群（iv PCA 群）に分け、児の出生時体重、Apgar score、退院時栄養方法、1 か月検診時の栄養方法について後方視的に比較する。

③ 研究機関名・研究者名

筑波大学附属病院 麻酔診療グループ 山田久美子

筑波大学 医学医療系 高橋伸二、田中誠

④ 保有する個人情報に関する利用目的

個人情報の取り扱いは連結可能匿名化する

⑤ 保有する個人情報の開示手続

個人情報は開示しません

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

個人情報は開示しません

連絡先

筑波大学附属病院 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：麻酔科 高橋伸二

電話・FAX：029-853-3210、029-853-3092